

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ	事業開始年度	平成21年度	作成責任者		
担当部局庁	研究振興局	担当課室	ライフサイエンス課	ライフサイエンス課長 石井康彦		
会計区分	一般会計	上位政策	ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計画、 通知等	新成長戦略(平成22年6月閣議決定)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に、3行程度以内)	近年急速に性能が向上している高速のシーケンサー等を活用して細胞・生命プログラム解読に挑むとともに、創薬など医学・薬学への貢献が期待できる有用なタンパク質の解析を行い、生命現象の統合的理解、医学・薬学等の産業への貢献、並びに構築した基盤のより様々な分野の研究、産業へ波及効果を与えることを目指す。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	「革新的細胞解析研究プログラム(セルイノベーション)」では、遺伝子の働きの変化や細胞内の情報の伝わり方などについての解析等による、細胞・生命プログラム解読に向け、革新的な解析能力を持つシーケンス拠点並びにデータ解析拠点の重点的な整備と、シーケンス拠点を利用した先導研究を一体的に推進。「ターゲットタンパク研究プログラム」では、基本的な生命の解明、医学・薬学等への貢献、食品・環境等の産業利用の3分野について、現在の技術水準では解明が困難なタンパク質の構造・機能研究を行うターゲットタンパク研究と、タンパク質構造・機能の解明に必要な技術開発拠点の整備を一体的に推進。					
実施状況	事業開始前に公募を行い、審査委員会において採択機関を決定。平成21年度は、革新的細胞解析研究プログラム(セルイノベーション)では11法人、ターゲットタンパク研究プログラムでは38法人により研究を推進。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	—	—	5,800	5,170	2,230
	執行額	—	—	5,798		
	執行率	—	—	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	—	—	5,798		
自己点検	支出先・用途の把握状況	課題解決型の明確な目標設定を持った国の委託研究プロジェクトであるため、支出先の用途の把握については、これまで厳格に実施している。具体的には、全ての委託契約について、支出先・用途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。				
	見直しの余地	○ターゲットタンパク研究プログラムについては、平成23年度の事業終了に向け、研究成果の産業への応用など、成果の社会還元に向けた取組みを強化するとともに、これまでに整備された技術開発拠点を、適切な受益者負担のもとで外部開放を進め、創薬等の新たな研究開発のための技術支援基盤として活用できるような仕組みの構築を行っていくべき。 ○革新的細胞解析研究プログラムについては、機器の整備や研究の実施のみでなく、運営がより効率的に実施されるような体制の整備や、次世代シーケンサーの能力を最大限活用するための研究者の技術の向上等にも配慮しつつ、より政策効果を高めていくべき。				
予算監視・効率化 チームの所見	1. 事業評価の観点:この事業は、高速シーケンサー等を活用した細胞・生命プログラム解読及び創薬等への貢献が期待されるタンパク質解析を行う競争的資金である。 2. 所見:この事業は、昨年11月の事業仕分け等も踏まえて実施しているところであるが、他の事業に対する公開プロセスでの指摘等を踏まえ、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性の確保等により予算を縮減すべきである。その際、ターゲットタンパク研究プログラムの一部について、成果の社会還元に向けて技術開発拠点の外部開放を進めるよう、補助事業に切り替えて各拠点の自立性を高めるべきである。また、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていけるべきである。					
補記						

文部科学省  
5,798百万円

非常勤職員手当 4.4百万円  
諸謝金 1.4百万円  
職員旅費 1.3百万円  
委員等旅費 1.0百万円  
庁費 0.1百万円

を含む

近年急速に性能が向上している高速のシーケンサー等を活用して細胞・生命プログラム解読に挑むとともに、創薬など医学・薬学への貢献が期待できる有用なタンパク質の解析を行い、生命現象の統合的理解、医学・薬学等の産業への貢献、並びに構築した基盤のより様々な分野の研究、産業へ波及効果を与えることを目指す。

[ 公募等・委託 ]

A. ターゲットタンパク研究プログラム  
:4,992百万円

大学・独立行政法人等  
(全38機関)

基本的な生命の解明、医学・薬学等への貢献、食品・環境等の産業利用の3分野について、現在の技術水準では解明が困難なタンパク質の構造・機能研究を行うターゲットタンパク研究と、タンパク質構造・機能の解明に必要な技術開発拠点の整備を一体的に推進。

[ 公募等・委託 ]

B. 革新的細胞解析研究プログラム  
:798百万円

大学・独立行政法人等  
(全11機関)

遺伝子の働きの変化や細胞内の情報の伝わり方などについての解析等による、細胞・生命プログラム解読に向け、革新的な解析能力を持つシーケンス拠点並びにデータ解析拠点の重点的な整備と、シーケンス拠点を利用した先導研究を一体的に推進。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

A.東京大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品購入費	蛍光相関測定システム、大型計算システム、中圧液体クロマトグラフィ等	716			
間接経費		322			
雑役務費	質量分析計使用料(徳島文理大学所有機)、化合物データハンドリングプログラム等プログラムライセンス使用料	42			
	プログラムポータルサイト管理費、サーバー保守委託費、機器維持費、補助業務費(人材派遣)等	32			
	マウス系統維持費等	14			
	化合物倉庫保守費、化合物入庫作業費(人材派遣)等	14			
賃借料	研究室借料	13			
旅費	外国旅費、国内旅費等	10			
その他	化合物運送料等	296			
計		1,459	計		0
B.東京大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品購入費	クラスタシステム、電動ステージ、倒立型蛍光顕微鏡システム、初期胚観察用共焦点ユニット、倒立型蛍光顕微鏡用培養装置、次世代マイクロピペットプラー、ディスクエンクロージャ、計算サーバー等	92			
間接経費		46			
人件費	特任教授、特任准教授、特任助教、特任研究員及び技術補佐員等	36			
雑役務費	時系列データ作成自動化アルゴリズムの開発、CSMLpipeline用のコンポーネントアプリケーション開発、遺伝子改変動物作製、補助業務(人材派遣)等	30			
借損料	共焦点レーザー顕微鏡借料、研究室借料等	10			
その他	公開シンポジウム開催費、国内旅費、外国旅費、通信運搬費等	16			
計		230	計		0
C.東京大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.東京大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

## 「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

### A: ターゲットタンパク研究プログラム

	支出先	支出額(百万円)
1	国立大学法人東京大学	1,459
2	独立行政法人理化学研究所	1,440
3	国立大学法人大阪大学	366
4	国立大学法人京都大学	311
5	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	273
6	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	117
7	国立大学法人北海道大学	104
8	横浜市立大学	85
9	株式会社ファルマデザイン	82
10	国立大学法人九州大学	77
⋮	その他	678
合計		4,992

## 「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

### B: 革新的細胞解析研究プログラム

	支出先	支出額(百万円)
1	国立大学法人東京大学	230
2	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	174
3	独立行政法人理化学研究所	165
4	国立大学法人東京工業大学	54
5	国立大学法人京都大学	52
6	国立大学法人大阪大学	7
7	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学	7
8	自治医科大学	7
9	埼玉医科大学	7
10	国立がん研究センター	6
⋮	その他	89
合計		798